

子どもの世界がひろがる 「動物とのふれあい」

学校で飼われているウサギやニワトリなどの「飼育動物」。

宮城県はこの飼育動物がいる学校の割合が、全国的に見ても低いのだそうです。

地域でも学校でも、子どもたちが動物にふれる機会が少なくなっている今、宮城教育大学の齊藤千映美先生に、動物とのふれあいによって得られることや楽しさについて、ヤギのチーズをご馳走になりながらお話をうかがってきました。



宮城教育大学
齊藤千映美 教授

宮城教育大学環境教育実践研究センター教授。研究テーマは自然保全教育、環境教育、動物行動学。また「ヤギふれあい事業」や八木山動物園と連携した公開講座、企画など多方面にご活動されています。

先生はどのような教育活動をされているのですか？

私は現在、環境教育実践研究センターというところに在籍し、環境教育を行っています。

今取り組んでいることは、ひとつは動物園との連携で、動物園を通じた自然保全教育。それからもうひとつは、飼育動物を活用した教育活動をしています。今、学校にいる飼育動物が減っているんですよ。特に宮城県では脊椎動物を飼育している小学校や幼稚園が3割を切っています。保育所では2割以下です。飼っている学校でも最後のウサギ1匹になっていたりとか、そんな現状なので学校でもあまり動物に触れられる機会がないんですね。少なくなった理由ですが、仙台市の場合は特に鳥インフルエンザの騒動があったから、子どもに飼育動物は絶対触らせないという時期もあったようです。それが落ち着いた後も、そのまま新規では飼わないから、死んでしまう順に少なくなっていく…という感じですね。

動物とふれあえる機会が減っているのですね。

そうですね。ヤギを街中に連れて行くと、お年寄りの方からはよく「懐かしいね、うちに昔いたんだよ」とか「近所で飼っていて、背中に乗って遊んだな」とか、思い出話をうかがいます。でも、若い方は昔ヤギがよく飼われていたことを知らなくて、あまり触ったこともないようです。今はそういう機会ってほとんどないんでしょうね。

昔はヤギを飼っている家が多かったのですか？

よく飼われていたのは戦前から昭和30年代のあたりです。ニワトリみたいに、うちで飼う家畜みたいな位置づけですね。昔はお母さんのおっぱいが出なかったらヤギのミルクで子どもを育てていたの、そういう意味でも貴重でした。昔は動物を飼うことで人間側にもメリットがあったんです。例えばヤギの場合は雑草や野菜くずを食べてくれて、お金も掛からずにミルクを出してくれます。あと、いざとなれば肉として食べられますよね。ヤギを飼わなくなったのは、牛乳が安価に流通され始めたあたりからですかね。

生活が変わり、動物との関わり方も変わった、ということですか？

そういうのもあるでしょうね。戦前戦後は学校で動物を飼うというと、農業動物として飼うことがほとんどだったようです。でも、あるときからかわいいから飼うみたいなの、愛護の対象になってしまったんですね。だけど、動物ってかわいいだけではなくて、その恩恵で私たちが生きているということも学べるような、そんなとらえ方ができるほうが本当はいいんじゃないかな、と私は思うのです。

動物とのふれあいや機会について、もう一度考えてみたいですね。

みんなが動物愛好家じゃなくてもよいのですけれども、動物を通じて自然や環境に興味がいったり、大切にしたいと感じてもらえると嬉しいです。八木山動物園には現在、ふれあい動物園というものがありませんが、地下鉄の開業をきっかけに、平成28年度にふれあい動物園を開園する予定になっています。まだ計画中ですが、だいぶ動物園も変わるようですね。今だとふれあえる動物がウサギやモルモットくらいで、ちょっと膝に乗せてなでる程度なんです。けれども、ふれあい動物園ではフリースペースを設けて、そこにヤギやカピバラ、ラマなどを放して自由にふれあえるようなプランだそうです。これからはふれあいの要素が増えていくでしょうね。

動物に触るのが苦手という子どもは、どうしたら克服できるでしょうか？

克服しなくてもいいのでは。ヤギを怖がる子どもには、まず「ヒヨコはどう？ウサギは？」と聞きますね。小さな生き物とふれあう間に、他の子がヤギに触っていて、大丈夫だよっていうのを見ると「じゃ僕も」となることもよくありますし。逆に、ヤギに会いに来たはずの子がミミズを捕まえて夢中になったりすることもあります。それもOKです。動物とのふれあいは、ふれあうことだけが目的ではないんです。それがきっかけになって、自然の面白さに目覚めるとか、何かの自信をつけるとか、誰かと仲良くなるとか、色々なことが結果として起こります。ただ、生きた動物には、子どもの五感を使った学習能力を引き出す絶大な力があるなあと、いつも感じます。教育の世界でも、体験型の学習はより重要性を増しています。「ヤギに手をべろっとなめられた」とか「ウコッケイがふわふわで温かった」みたいな、新鮮な体験や感動を、子どもたちが動物ざらいになる前に、ぜひ味わって欲しいです。

動物とふれあうときに、注目すると面白いポイントってありますか？

ヤギの場合、個体差もありますがオスとメスで性質が全然違いますね。オスは甘えん坊で無駄な行動が多くて、メスヤギ命です。でもメスはもう食べることにしか考えていない、みたいな(笑)。動物園の動物でもそうですが、オスとメスの性質の違いは共通して見られますね。また動物を見た後で、人間を見つめ直すのも面白いかもしれません。ちょっと話が逸れますが、私の主人は筋トレが趣味で、私が家事で必死になっていても、横で知らん顔して重い物を持ち上げたりとかしているんです。それで一度腹が立って、「なんで私がこんなに大変なのに、あ

なたは家に帰ったら筋トレして、その後はずっとテレビを見ているの!」って問いつめたんです。そしたら主人は「俺はライオンのオスと同じなんだ」って言うんですよ。ライオンは群れで生活していますが、狩りをするのはメスなんです。メスが狩りをして獲物を仕留めると、オスはムクッと起き上がって、メスを蹴散らしてその獲物を食べ始めるんですよ。ひどいでしょ(笑)。だけどライオンのオスは、群れに危機が迫ったときには体を張ってみんなを守る。そういう役割なんですね。だから俺はいざという時のために体を鍛えなくてはいけないんだ、と主張してきました。主人も生物学者だからこんなことを言うわけで、全然納得できないけれど、なんだか面白かったのが怒りが失せてしまいました。その「いざ」はいつ来るのかな…って感じですけど(笑)。

大人になってからでも、動物のことを知るのって面白いですね!最後に、今後の活動について詳しく教えてください。

学校や仙台市のイベントで、「ヤギふれあい事業」というものを行っています。ヤギの他にもウサギやウコッケイともふれあえますよ。あとは、県内の自然が豊かな地域の田んぼで、子どもたちと一緒に自然観察を毎年行っています。あと毎年9月に八木山動物園で大きなイベントがあります。

●環境教育実践研究センターの詳しい情報はこちらのHPでご確認ください
<http://www.eec.miyakyo-u.ac.jp/blog/>

●「ヤギふれあい事業」のお申し込み、お問い合わせはこちらです



☐〒980-0845
仙台市青葉区荒巻字青葉149
宮城教育大学環境教育実践研究センター
☐齊藤千映美 ☐csaito@staff.miyakyo-u.ac.jp

